

「ハンドリングシステム」が本稼働

建材型厚板溶断業大手の神鋼鋼板加工（本社・千葉県市川市二俣新町、社長・近藤真一氏）では、レーザ切断後の切板部材を自動で片付け・仕分け・集積する「自動ハンドリングシステム」が本格稼働を開始した。門型レーザ切断機と同じ定盤上に共載した片付けロボットが切板をピックアップする仕組みで、一連の動作には人手を介さないことから、生産性向上と作業者の労務負担軽減につながる。

神鋼鋼板加工

「切板の片付け・集積」自動化

本システムは、ガントリー 12mm厚までの薄物を主体と式搬送装置に多関節ロボット する5号レーザ切断機（出力を装備した構成で、小池酸素 4KW、ライン長約40m）に工業が開発・商品化した第1 本システムを新設した。号機。神鋼鋼板加工のアイデ 切板の形状は複雑で多岐にアヤノウハウも盛り込まれて わたり、穴あけ品なども多い。おり、特許は両社が共同で取 これらを確実にピックアップし、垂直に積み上げるためマ

得している。
切板の可搬重量は最大50kg、板厚6〜12mm、幅100〜500mm、長さ1000mmも厚物対応など一部に課題は2層までを対象とする。ピックアップする成功率が当初目標の「95%以上」を安定的にクリアし

付けた外側に設置した専用の片付け架台に、納入たことで7月から本格稼働体先ごとに仕分け・制に入った。当面は日中の有集積される。その人状態でシステムを運用する。切板の1山当り。特に細かい小物切板の片付たりの積み上げ高さは最大270mm、時間短縮や省力・省人化効果が見込まれる。人手を介さないことで



レーザ定盤に共載した「片付けロボット」④、ロボットが自動で片付け用架台に切板を積み上げる

ないことで
作業者の負
担軽減とと
もにコロナ
対策にも寄
与する。▼
6面「鉄鋼
関連・流通
加工」版に
関連記事